

令和 3 年度 県立水戸農業高等学校自己評価表 (全日制)

目指す学校像	知・徳・体を身に付けた社会に有為な人材を育成する学校。生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校。魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校。体験学習・国際交流等を通してコミュニケーション能力を磨くことができる学校。地域社会の関係機関・団体・住民等と連携するとともにそれらに開かれた学校。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
[昨年度の成果] ・HR、立哨指導及び保護者との連携等を通した反復指導で基本的生活習慣を身に付けさせるための指導を実施した。 ・進路指導において、四年制大学では19名（農業系10名）、短期大学では6名（農業系4名）が合格した。 ・就職においては就職率100%を達成した。 ・相撲部、なぎなた部の全国大会出場や女子バスケ部の県ベスト8など各部とも優秀な成績を収めることができた。 ・新型コロナウイルス感染症対策については、ガイドラインに沿って感染拡大防止に努めることができた。 [課題] ・身だしなみ指導を中心に規範意識を高め、規則を守る生徒を育てる。 ・思考力・判断力・表現力の育成につながるような観点別評価を徹底させる。 ・進路指導部と各学年との連絡を密にし、1年次から体系的な進路指導体制を確立することで進路意識を高める。 ・部活動紹介や見学会等を実施し、部活動加入率の上昇と各部活動の更なる活性化を図る。 ・農業クラブ活動をより活発にし、体験を中心とする農業教育を充実させ、魅力ある学校行事を実施する。 ・資格取得を奨励し、学習意欲の向上を図る。 ・最先端の職業教育を行う「スマート専門高校」を実現し、地域の産業界を牽引する職業人材の育成を図る。	・基本的生活習慣の確立とコミュニケーション能力の育成	・基本的生活習慣や規範意識を身に付けさせ、身だしなみや言葉使いに気をつけることで、社会の有為な形成者としての人格の完成を目指す。 ・豊かな人間性や素直な心を育み、コミュニケーション能力を育成することで、いじめ防止につながるような、より良い人間関係の構築に努める。	A
	・基礎学力の向上と系統的な進路指導体制の確立	・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。 ・生徒の関心・意欲を引き出し、思考力・判断力・表現力の育成につながるような観点別学習状況を踏まえた学習評価を徹底させる。 ・系統的な進路指導体制を確立させ、生徒の進路に沿った自己実現のための、適切な支援・指導を行う。	A
	・新しい生活様式を創造しながらの特別活動及び部活動の活性化	・ボランティア活動、社会教育活動、環境美化活動等への積極的な参加を促す。 ・学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動を充実させ、生徒に達成感を持たせる。 ・運動部・文化部等の加入率の向上を図り、部活動の活性化に努める。 ・生徒が、HR活動等を中心として、各教科と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育む。 その際、その記述をもとに対話的に関わることによって、生徒の自己実現につなげる。	A
	・健康と安全教育の充実	・学校施設等の点検・充実に努め、安全な校内環境の整備を進める。安全教育の徹底、特に交通事故の絶無に努める。 ・生徒及び職員の健康管理に努め、新型コロナウイルス感染症等の防止、健康の保持増進を図る。	A
	・農業専門教育の充実と地域連携	・一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業への取組を推進することで、魅力ある農業教育を実践し、農業後継者及び関連産業技術者の育成を図る。 ・学校農業クラブ活動の充実を図り、資格取得への積極的な取組と合格率の向上を図る。 ・開かれた学校づくりを継続・発展させるとともに、地域と連携した体験学習（インターシップ等）の充実を図ることで、勤労観・職業観を育成させる。 ・GIGAスクール構想、BYODの推進による学校における高速通信ネットワークの整備を完了した上で、生徒たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現を図る。 ・Society5.0時代における地域の産業を支える職業人育成を進めるため、専門高校においてデジタル化対応装置の環境を整備することにより、最先端の職業教育を行う「スマート専門高校」を実現し、地域の産業界を牽引する職業人材の育成を図る。	B
	・働き方改革の推進	・学科ごとに業務内容の見直しや再点検等による事務改善・効率化（スクラップアンドビルド）を積極的に推進、最終的には業務量の削減に努める。 ・管理職が率先して、有給休暇等を取得し、教職員一人ひとりの意識改革の醸成とそれに伴う校務の効率化と質の向上に向けて主体的に取り組むことで、効果的な教育活動を具現化する。	A

別紙様式 2 (高)

三つの方針		具体的目標	評価		次年度(学期)への主な課題	
「三つの方針」 (スクールポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	地域社会の役割の一端を担える力を備え、社会の変化に柔軟に対応し、主体的に社会に関わることができる人財の育成	A	A	各学年において進路実現に向けた適切な目標の設定	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	生徒一人ひとりの多様な進路希望や学習のニーズに合わせた教育課程において、体験的な学びから知識・技術を確実に身につけ、就職から進学までの進路希望を実現する	B		校内外での体験活動が円滑に展開できるよう地域産業や機関との連携体制の構築	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	学科の特色に応じた専門教育に取り組む姿勢があり、チャレンジ精神旺盛で、夢の実現に向けて自ら主体的に考え行動しようとする意志を持った生徒	A		説明会をとおして、学校が期待する生徒像を明示	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
教 務 部	教育活動が円滑・効率的に機能するような取組の研究	授業環境の整備を図る。	A	B	遠隔授業の実施に向けた研修会等を定期的に実施するなどの対応が必要である。また、基礎学力の向上に向け教科等横断的な学習の実現に向けた取り組みが課題である。新学習指導要領に対応した統合型校務支援システムの利用等の周知を遅滞なく行う必要がある。	
		授業での I T 活用を推進し、情報機器の整備・拡充を図る。	A			
		教育課程に基づいた教育活動の定着を図る。	A			
		新学習指導要領に対応した新たな教育課程を編成する。	A			
	基礎学力の向上	授業研究(授業参観等)を実施し、授業内容の充実を図る。	B			
		基礎学力の向上を目指し、進路指導部や学年団との連携を図る。	B			
		資格取得に向けての取組を強化する(全体計画・指導計画の検討)。	A			
	広報活動の充実	情報関連部門を中心に、ホームページの定期的な更新・内容の充実を図る。	B			
		奨学金制度の広報活動を充実させる。	A			
		中学生や受検生に向けて、水農体験・学校公開やホームページの充実をさせていく。	B			
	教育情報ネットワーク環境の整備	校務支援システム・校内ネットワークシステムの整備並びにネットワーク使用基準を作成する。	B			
	生徒指導部	基本的生活習慣の確立	朝の SHR 担任・副担任体制・朝の立哨指導を継続実施し、制服を整えさせる。			B
授業開始時間の着席を厳守させ、授業に取り組む態度を育成する。			B			
挨拶の励行や身だしなみ・言葉遣い等、学校生活における基本的生活習慣を確立させる。			B			
ルールや決まりを守り秩序ある生活ができるよう、特別指導を取り入れ、生徒の生活改善を図る。			A			
授業の遅刻を防止し、時間の大切さを身に付けさせる。			B			
安全な学校生活環境の維持		貴重品の自己管理を徹底させ、盗難や紛失防止に努める。	A			
		自転車・バイク通学者に対する安全指導の継続と交通ルールを守った運転を励行させる。	B			
		立哨指導等を通して、登下校の安全を確保する。	B			
		薬物乱用防止教室やケータイ安全教室等の各種講話を通して、法律や規則を守り被害に遭わない生活ができるようにする。	A			
心の教育の推進		農業教育や道徳教育を通してモラルの向上と命の大切さに気付かせる。	B			
		教育相談やカウンセラー、担任との面談等を通して学校生活への適応と自己実現を促す。	B			
		ボランティア活動・交流活動・体験活動等への参加を促し、自らの立場を理解して他を思いやる心を育成する。	B			
いじめ防止対策		未然防止として、授業やホームルーム活動を通し生徒の規範意識を高めさせる。	B			
		早期発見として、アンケート調査を実施し実態把握に努める。また、生徒や保護者と相談で	B			

別紙様式 2 (高)

		きる環境を整える。			分な部分がある。日々の巡回点検や学期ごと定期点検を実施することで、適切なバイクで通学できるように努める。
		早期解消に向け被害者を保護し、速やかに実態把握及び加害者の対応にあたる。	A		
		保護者や警察、相談所等と連携し情報交換をする。	A		
		教職員の共通理解と指導力向上を図るための研修を充実させる。	B		
特別活動部	部活動の活性化	部活動の加入率向上を目指し、運動部だけでなく文化部活動・農業研究部活動も活性化を図る。	B	B	・部活動加入率の向上 ・生徒が積極的に学校行事に参加できるよう学校行事を充実させる。
		活動の成果を高めるためのリーダーの育成を図る。	B		
		各活動場所や部室周辺等の環境整備の充実に努める。	B		
	学校行事の充実	水農祭の内容など計画立案の再検討と会場の環境整備を図る。	B		
		各種学校行事への積極的な参加を通して、生徒に達成感を体験させるとともに、クラスの連帯意識を高める。	A		
	成達会活動の充実	ホームルーム活動、学校行事との連携を深めた各種委員会活動の充実を図る。	B		
	キャリアパスポートの活用	HR活動等を中心として、各教科と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育む。その際、その記述をもとに対話的に関わることによって、生徒の自己実現につなげる。	B		
進路指導部	系統的な進路指導の充実 (多様な進路実現への対応)	3年間を見通し、ホームルームでの進路指導の充実を図る。	A	A	・コロナ禍でできなかった対面での講話や報告会を増やす。 ・資格取得を促進し、希望する進路を実現させる。 ・インターンシップへのより積極的な参加を促す。 ・今年度のような進路実績が継続するよう指導体制を整える。 ・学年間との情報共有・連絡 ・進路に合わせた選択科目選択への指導
		学年別の進路講話、進路ガイダンス、面接指導を系統的・計画的に行う。	A		
		各種進路情報の収集と積極的な活用、情報の共有を図る。	B		
		係分担を明確にし、各学年との連携を強化する。進路指導を組織的に行う。	A		
	進学指導の充実	推薦・AO入試・小論文対策・作文やレポートの作成指導・面接指導を充実させる。	A		
		大学説明会や大学見学会への積極的な参加を促し、希望する進路実現を目指す。	B		
	就職指導の充実	就職対応の模擬面接指導、履歴書や礼状の書き方などの添削指導を早期に充実させる。	A		
		積極的な企業開拓と継続的な訪問を実施し、就職情報の提供・共有を図る。	B		
	勤労観・職業観の育成	インターンシップへの積極的な参加、体験型ガイダンスや進路講話を充実させる。	A		
保健厚生部	生徒の健康安全に対する管理運営	健康診断・保健調査により生徒の健康状態を把握し、健康指導に活かす。	A	A	・感染症対策のため、衛生用品の供給と生徒教職員への啓蒙を継続する。 ・感染状況を見極めながら、各種行事の計画立案を行い円滑な実施を図る。 ・全職員の協力のもと、全校清掃活動を推進する。 ・教職員の健康増進のため、働き方改革を推進する。
		感染症対策及びアレルギーを持つ生徒への迅速な対応に万全を期す。	A		
		生徒の安心・安全のため、スクールカウンセラーなど関係機関との連携を図る。	A		
	校舎内外の学習環境の安全と美化	清掃区分の明確化及び担当教員による指導・監督の徹底に努める。	A		
		清掃用具の管理と円滑な供給に努める。	A		
	防火防災対策の徹底	暖房器具の安全な利用を指導する。	A		
		地域と連携した防災避難訓練を実施する。	B		
	教職員の働き方改革の推進	教職員が、健康的に仕事をして、教育活動の質を高めるために、一週間に一度は定時退勤をするよう働きかける。 教職員のストレスの軽減のために、相談体制の拡充を図る。	B		
図書部	本校の教育目標に応じた学校図書館作りの研究	農業教育の専門高校として、関係書類の整備に努める。	B	A	・利用者を増やすために、図書のアピールを積極的に行う。
		本校の文化センターとしての役割を果たすために、図書・視聴覚資料等の整備に努める。	A		
		職員研修の成果として、紀要を発行する。	A		

別紙様式 2 (高)

	学校図書館を利用した教育の充実	教科指導とのつながりをもった教育資料の充実に努め、授業・自主学習の支援をする。 校内読書感想文コンクール、図書委員研修会等の開催や広報紙の発行により、読書活動の啓蒙を図り、各種情報の収集と発信に努める。 図書委員会活動を活発にし、生徒の読書活動の活性化を図り、図書館利用者を増やす。	B A A		・図書委員の活動をさらに活性化し、閲覧室の環境美化に力を入れる。 ・授業での活用を促す。	
	視聴覚機器の充実と利用	授業で利用できるソフトと機器の充実を図り、広く授業・教育活動の場として提供する。	B			
	学校図書館の施設・設備の充実	視聴覚室や閲覧室の学習環境の整備を図る。書庫の書籍の管理環境を改善する。	A			
	司書作業の研修と蔵書の整理	利用しなくなった書籍・ビデオ等の除籍作業をし、蔵書点検を進め書籍の管理を図る。	A			
	渉 外 部	P T A行事参加の促進	P T A行事等について確実に保護者に連絡をするための、新たな方法を模索していき、P T A活動への参加率を向上させる。 P T A行事と運営委員会を同日に設定する等、効率よい開催を目指す。			B B
P T A支部活動の持続		支部活動への会員の参加率を増やすため、運営委員会等において、支部活動の活性化を模索する。	C			
校外生徒指導の実施		校門・後台駅での登校指導を多くの会員で実施していく。	B			
主催行事の充実		水農祭・公開講座・視察研修等の本部主催行事は工夫を凝らし、安全で安心できる環境を整え参加率を高める。	C			
広報活動の充実		広報紙・HP等での行事の案内や報告等、スピーディーで、わかりやすくP T A活動を広報していく。	B			
農 場 部		農業後継者・農業関連産業従事者の育成	コロナウイルス感染拡大防止を徹底しながら、校外実習体験活動を推進する。 各学科の専門性を生かした資格取得を計画し、合格率向上への指導を充実させる。 規格・認証等（GAP、HACCP、JAS、GI）やSDGsの教育を推進する。 自宅就農、雇用就農者、新規就農、それぞれに対応した就農支援を充実させる。	A	A	・スマート農業実現に向けた圃場や施設のICT化を継続して進め、それらを有効に活用した実習や実験を行うために職員の資質向上や年間指導計画の見直しを行う。 ・ポストコロナ時代を見据えた実習・実験や体験活動の在り方について校内外で検討し、安全で充実した学習活動ができるようにする。 ・本県で開催される農業クラブ関東大会を成功させる。
	開かれた学校づくりを継続・発展と地域と連携した体験学習の充実	コロナウイルス感染拡大防止を徹底しながら、交流活動や校外活動を推進する。 幼稚園児や小学校児童に対し、農業体験活動の指導・援助の学習を展開する。 産官学連携を推進し、地域資源開発や地域活性化に向けた学習活動を推進する。	A			
	農業クラブ活動の充実	プロジェクト活動や各種発表会・競技会等への積極的な取り組みを支援する。 関東地区学校農業クラブ連盟大会令和4年度茨城大会に向けた準備をするなかで、生徒の農業クラブに対する意欲や態度を醸成する。	A			
	スマート農業実現に向けた圃場整備	スマート農業実現に向け、圃場や施設のICT化をすすめると同時に、それらを有効に活用した実習や実験のあり方を検討する。	B			
	寮務委員会	基本的生活習慣の確立	規律ある共同生活を通して、挨拶を励行し、時間を守る態度を育て、自主・自立の精神を身に付けさせる。	A		
		寮運営の改善及び活性化	長期生の増減に伴った寮運営の在り方を検討し、次年度に向け準備をする。また、寮と農場との連携を検討する。また、営農講話など、就農に関する行事をできる限り実践する。	B		
		家庭・地域との連携	寮の生活・規則について、保護者に対して周知・連携を図る。	A		
1 学 年	基本的生活習慣と適切な人間関係の構築	規律ある生活習慣を身に付けさせるために、服装頭髪指導に力を入れる。また、適切なコミュニケーション力と規範意識が身に付くよう、集会やホームルーム・授業や実習においても継続して指導していく。	B	B	・身だしなみや挨拶、時間厳守等の日常生活については、日々丁寧な指導を続けてきたので、ある程度は確立してきた。今後は、ひとりひとり	
	進路指導の充実	1年次より勤労観・職業観を育成するため、進路指導部等と連携し、課外授業やガイダンス等を実施する。また近年基礎学力が重要視されているため、資格取得に向けての積極的な取	B			

別紙様式 2 (高)

2 学 年	活力ある生徒の育成	り組み等を通して、学習する習慣を身に付けさせる。		B	の現状と希望に沿った進路指導と校内での活動推進を充実させたい。
	規範意識の確立	運動部・文化部等への加入、また農業クラブ活動への積極的な参加を促すことで、活力ある生徒の育成を目指す。	B		
	基礎学力の向上	規律ある生活習慣を身につけさせるために、清掃活動の指導、遅刻防止の指導、服装の指導を継続していく。	A		
	進路指導の充実	基礎力診断テストの学習到達度が上昇するように、教科担当者と連携してテスト前後の学習指導を充実させ、意欲的に取り組むように促す。	B		
卒 学 年	進路希望の実現	進路ガイダンスや体験学習を通して、進路希望を明確にさせるとともに、能動的に取り組む姿勢を醸成し、希望進路未定者率を 10%以下にする。	A	B	・規範意識の確立のための働きかけは今後とも引き続き行う必要がある。また基礎学力向上の取り組みに成果があらわれ、D3-の該当者が3分の1になった。
	基礎学力・社会性の向上	個々の進路実現のために、生徒・保護者とのコミュニケーションを密にし、進路指導部・学科との連携を深めながら、小論文指導・面接練習などを繰り返し行う。	B		
	規範意識の高揚	S P I 問題集・模擬テストを計画的に実施して、常識力・基礎学力の向上を目指す。さらに課外授業等できめ細かい指導を行う。	B		
農 業 科	農業教育の充実	遅刻・欠席指導を通して、規範意識や社会的マナーを身に付けさせて基本的な生活習慣を確立させる。	A	B	・進路指導は学科ごとの特徴があるため、2 学年への引継ぎはクラス単位で行うとよい。四年制大学への進学指導は長期的な取り組みが必要であった。進路決定後の生活態度のゆるみが目立つ。
	基本的な生活習慣の確立	資格取得のために組織内外の連携を深め指導体制を充実させる。	A		
	進路希望の実現	農作物の育成を通して、思いやりや環境への関心を高める。	A		
	学習環境の安全と美化	専門教育学習（プロジェクト学習等）を推進する。	B		
		挨拶を励行し、規則や時間を守り、自立できる基本的な生活習慣を育てる。	A		
		面接など繰り返し指導を行い、専門分野の知識を定着させ、就職や進学の希望を実現させる。	B		
畜 産 科	体験教育の推進	農場実習棟や更衣室等の清掃区分を明確にし、指導・監督の徹底に努める。	A	A	・コロナ禍においても密になることなく、感染防止につとめた学習体制が確立できたが、各授業での美化については徹底できなかった。
	個に応じた指導	実験実習室内外の美化及びごみの分別の徹底と軽量化に取り組む。	A		
	わかりやすい授業の展開	主体的、創造的に家畜や動物に触れ、生命の大切さを感じる教育を実践する。 (分娩管理実習・解剖・解体実習の活用・畜体の測定・動物の運動・食品の加工)	B		
	畜産場の地域社会への開放	課題研究において、一人一人の目標に沿った課題の設定や内容の充実を図る。専門科目の特色を活用し、資格取得に向けての目標を持たせ教育内容の充実を図る。	A		
園 芸 科	わかりやすい授業の展開	衛生管理に注意しながら、牧場を積極的に開放し、地域や関係機関との連携を取り、教育活動の活性化を図る。専門科目学習教室授業と実験実習を有機的に結び付け、意欲的に学習する態度の育成を図る。	A	A	全体を通して、概ね目標達成できた。ICT を活用した授業展開を実施してきたが、農場での有効活用が不十分であったため、次年度への課題とする。畜産場の開放はコロナ禍により制限されたが、家畜疾病予防の衛生管理面を徹底することができた。
	園芸作物の栽培技術の習得	専門科目学習教室授業と実験実習を有機的に結び付け、意欲的に学習する態度の育成を図る。	A		
	プロジェクト活動・課題研究発表会の充実	プロジェクト学習の取組と、育苗から収穫までの栽培管理実習の強化を図る。特に直売所の運営に積極的に参加させ、年間計画から販売までを通して、6 次産業化する農業の実情に合わせた指導を行う。	B		

別紙様式 2 (高)

		課題研究発表会で、意欲的に発表させることにより、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上を図る。	B		職員のスキルアップを図る。
農業土木科	理解に繋がる授業の展開	各学年において、段階的な学習活動を確立し、基礎・基本を踏まえた授業を展開する。授業の目標や到達点を具体的かつ明確にし、理解できる授業の実施と授業内容の充実に努める。	A	B	・ドローン講習を年間計画に組み入れ、多くの生徒の取得を目指す。また、農業鑑定競技会の計画的な指導体制。 ・定期的な学科会議の実施による教員間の意志統一と生徒の指導体制の充実。
	理論と実技の一体化	理論と実務演習を連動させた授業を展開することで、知識と技術の定着を図る。	B		
	プロジェクト学習の推進	社会貢献及び地域貢献を目標としたプロジェクト学習や課題研究の展開など、生徒が積極的、主体的に学ぶことができる学習環境を整える。	B		
	社会貢献・地域貢献活動の推進	生徒が学ぶフィールドを学校内および校外に広げることで生徒の学習意欲を高め、キャリア形成及びシティズンシップを高める学習機会を整える。	B		
生活科学科	「つくって食べる」という食農教育の推進	自産自消、旬産旬消、地産地消という考えを基本に、有機農法で作物を作り、自給の体験を通して生きるということの本質を理解させる。	A	A	・地域との連携事業に積極的に取り組む。 ・学科のオリジナル商品を開発する ・プロジェクト学習活動を推進する。 ・資格取得を推進する
	自立した生き方、本来あるべき生き方の探求	1年 「作物を栽培して、それを食材として調理・加工して食べること」に興味・関心を高め、食べることの本質を理解する。農業と環境について理解させる。	B		
		2年 作物の栽培管理ができるようになることを通して、自信と誇りを持たせる。	A		
		3年 自ら課題を設定し解決することで、自立した生き方につなげさせる。	B		
食品化学科	わかりやすい授業の展開	ICT 機器を活用した授業の展開を通じて、農業への興味・関心を高める。食品産業に関わりのある実習・実験を通じて、職業人として必要な人間性と高い倫理観を身につけるさせる。科学的根拠に基づいて、創造的に課題解決する総合実習を展開する。	B	B	・教材の ICT 化については徐々に移行しつつある。今後は classroom の活用が課題。 ・休校期間を活用した進路指導は、学科を絡めて効果的に行うことができた。ボイラーや危険物など難関資格への取り組みが今後の課題。 ・コロナの影響で、地域との交流は進まなかった。
	社会に開かれた教育課程の充実	進学・就職希望の生徒に対する計画的・継続的な支援に努める。資格取得への興味関心を高め、受験者及び合格率が上がるように放課後の課外を実施する。職業観を醸成する体験学習の実施や関係機関との連携を強化する。	B		
	対外的な活動の充実	プロジェクト学習およびチャレンジプロジェクトを活用して、地域農家と連携した持続可能な社会形成を意識した課題解決型学習を展開する。生産物直売所実習やインターンシップを活用した体験学習を展開する。	B		
農業経済科	基本的な生活習慣の確立	ホームルームや授業を通して身だしなみやマナーについて常に意識させる。	B	B	・身だしなみやマナーについては、改善が見られた。 ・外部での実習ができ、検定試験の合格率は上がった。 ・農業経済科の周知が不十分であった。
	学習意欲の向上	資格取得など生徒一人一人の目標を定めることにより、意欲的に学習に取り組ませる。インターンシップなど校外でも活躍の場を広げ、生徒の自主性を育てる。	A		
	進路指導の充実	進路意識を高め、自己の進路実現のための態度を育てる。	B		
	広報活動の充実	ホームページや学科通信の充実を図る。	B		
国語科	基礎学力の向上	生徒の実態を踏まえ授業の展開を工夫し、基礎・基本の定着を図る。	A	A	・生徒の学習意欲向上に向けて、さらに授業展開の工夫を行う。 ・ICT を活用し授業を活性化させる。
		授業参観を実施し、学習指導の手だてや工夫を協議し指導力の向上に努める。	B		
		漢字力をつけるため授業や定期考査に継続的に取り入れる。また、漢字学習への意識向上や定着のため漢検を活用する。	A		
	表現力の向上（進路対策）	目的や場に応じて自分の考えを文章にまとめる力を育成する。書籍や新聞等を活用し、自ら考える力を養い、自己表現力を高め、生徒の進路に応じた個別指導を充実させる。	B		
地歴・公民科	日本国及び世界の国々が形成される歴史的過程と地域的特色の	教科書のみならず、新聞や視聴覚教材など多種多様な教材について ICT 機器等を用いながら、授業内容を分かりやすく伝える工夫をする。また適宜問いかけを入れながら、理解度を	A	B	・生徒の主体的な学習活動を促すため、学習内容や方法の

別紙様式 2 (高)

	違い及び現代の社会についての理解と知識の深化を図る。	確認していく。 基本的な内容を精選し、それぞれの科目の特徴を生かした指導内容を構成する。	B		具体的工夫について研修を行う。 ・ICT 機器を活用した授業を展開できるように、教員間での情報交換や研修に取り組む。
	現代の国際社会に主体的に生きる民主的・平和的な国家・社会の一市民として必要な自覚と資質を涵養する。	授業に臨む姿勢を整えさせる。時事問題などを教材として積極的に取り入れ、社会的な関心を喚起する。更に生徒が理解を深め、意見発表できるようにする。	A		
		ノート提出・小テストの実施等を定期的に行い、生徒が現代社会に必要な基礎的な知識・教養を身に付けられるよう指導する。	B		
数 学 科	基礎学力の向上	基礎・基本の定着を図るため、教科内で積極的に情報交換し生徒の実態に沿った授業を展開する。 基礎学力が定着していない生徒へ個別指導を実施し、基礎の定着を図る。 進学希望の生徒に対して、希望する進路に沿って個別に課外を実施し対応する。	B	A	・タブレットを所持しているという生徒の実態に沿った授業の展開が十分でなかった。教科内で連携し、授業内の ICT 活用を活性化するのが課題である。
	数学検定資格取得の奨励	学期に 1 回を目安に実施し、資格取得を積極的に促し、課外や個別指導を実施する。	A		
理 科	教員の指導力の向上	積極的な授業公開や、授業内容や指導法について情報交換を行い、自己研鑽に努める。各科	B	B	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、生徒実験が実施しにくい中、ICT を活用し、工夫して授業を行った。 ・学校全体で、更なる ICT 環境の整備の必要性を感じた。
	基礎学力の向上	の学習内容と関連した授業内容を精選し、本校生にあった教材を作成する。	A		
	興味・関心の向上	科学のトピックスの紹介などを通して、農業と理科の関連性を理解させる。	B		
保健体育科	進路指導への積極的な関わり	進学者を対象にした生物・化学分野の課外の実施と個別指導を充実させる。			
芸 術	協調性や協力性の育成	生涯にわたり継続して運動に親しむ力の育成を図る。	A	A	・熱中症や新型コロナウイルス感染拡大防止に応じた学習指導の工夫・改善し、授業実践する。
		集団としてのきまりを守り、活動できる体育学習を展開する。	A		
		目標の解決を目指して仲間と協力し、運動に取り組ませる。	B		
英 語 科	基礎学力の向上	提出物を確認し、生徒の技量を確認する。	A	A	・生徒の感性を育てるための教材を研究し、生徒に応じた教材の精選をする
		名品・名跡を鑑賞し、自己の向上を図らせる。	A		
英 語 科	基礎学力の向上	英単語や基礎的な文法問題の反復練習を行い、その後小テストに取り組ませることで生徒の理解度を把握し、苦手箇所を授業内で重点的に説明する。	A	B	・英単語テスト、文法テストの継続。 ・ノート提出だけでなく、授業中のノートへの書き込み見て早めに助言を与える。 ・教科書の内容をできるだけシンプルに教える。 ・英検課外の頻度を増やす。
		ノートを定期的に点検して、学習の理解度を把握する。	A		
	モチベーションの向上	A L T を活用し、より実践的な生きた英語を学ぶ機会を与える。 簡単な内容を理解させ自信を付けさせ、学習のモチベーションを高めさせる。	C B		
		授業中、積極的に資格取得を呼びかけ、英検対策の課外・面接を積極的に行う。	A		
家 庭 科	資格取得の奨励	S T E P 英検等、より上位の資格取得を奨励する。	A	A	・引き続き感染対策を徹底し安全で効果的な実験実習を行う。 ・食物・被服・保育検定が定着してきたので周知と指導を継続する。
	家庭生活の課題を主体的に解決する能力の涵養	実験・実習等を通して基本・基礎的知識や技術の習得を図るとともに、心の触れ合いを持ち、豊かな人間性と生きる力を育む。	A		
家 庭 科	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度の育成	体験学習・視聴覚教材の利用・新聞記事の活用などにより生徒の興味・関心を高め、家庭生活をより身近な問題として捉えさせる。	A	A	

